

## ブロッコリーの一斉収穫に適した加工業務用品種の検討

### 1 背景・目的

ブロッコリーでは青果用に加えて需要が高まっている加工業務用出荷に向けて、機械による一斉収穫技術の確立が求められている。青果用の慣行品種「おはよう」を加工業務用として一斉収穫すると、生育の早い株では花蕾が緩むため収量が低下する。そこで、一斉収穫しても、収量を確保できる加工業務用に適した品種を検討する。

### 2 技術のポイント

- (1) 「グランドーム」は、「おはよう」に比べ 2L 以上で外品割合が低いことから(図)、加工業務用としての可販収量が約 1.5 倍と優れる(表)。
- (2) 加工業務用ブロッコリーは主に小房に切り分けて利用されるため、生育が進み、花蕾が肥大しても緩みや黄化が少ない「グランドーム」は加工業務用として有望である(写真)。

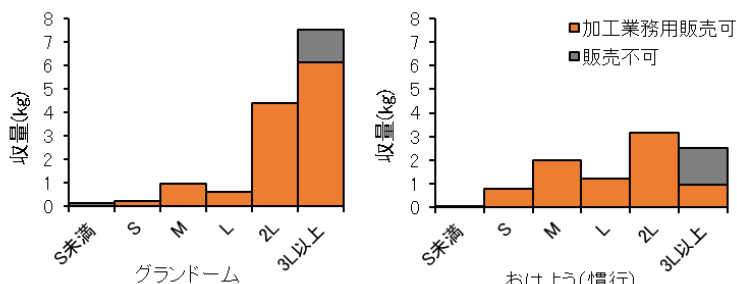


図 階級ごとの品質と収量 (30 株)

表 品種の違いが収量に及ぼす影響

品種	収穫日数 (日)	花蕾径 (cm)	花蕾重 (g)	可販収量 (kg/10a)
グランドーム	110	14.6	474	1,368
おはよう(慣行)	98	12.2	313	904

※各品種 30 株調査

写真 収穫物の様子

上：グランドーム、下：おはよう(慣行)

### 3 成果の活用と残された問題点

- (1) 試験は 2020 年に水田転換畑で行い、播種は 2 月 26 日、定植は 3 月 25 日に条間 50cm 株間 40 cm の 2 条千鳥植えで実施した。
- (2) 収穫は、青果用中心階級 L(花蕾径 12cm) を超える株が全体の 7 割を占めた日に実施した。今後、収量が最大となる収穫時期を検討する。

問合先：園芸栽培グループ TEL 076-257-6911  
 担当者：松野由莉・山崎いづみ・村濱 稔